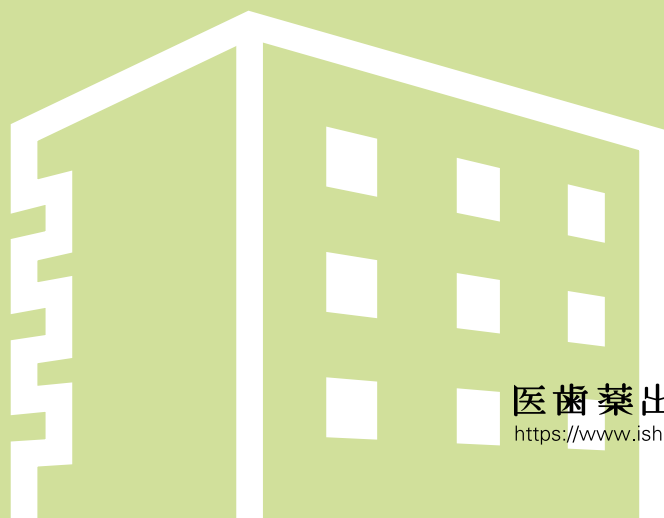
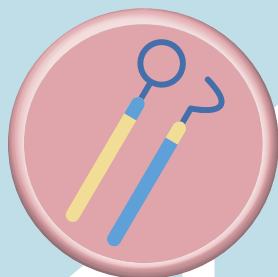


# かかりつけ歯科医のための 訪問歯科診療のヒント

福井智子 編著



# 訪問歯科診療でのパートナー

福井智子 Tomoko Fukui

## ◆ますます期待される歯科衛生士

歯科衛生士が活躍する場として、訪問歯科診療は常に期待される分野です。一方で、訪問の場合は歯科医師同様、新人歯科衛生士には難しい分野でもあります。

一見、単純な内容しか行われていないようにも見えるため、経験の少ない歯科衛生士でも対応できそうにも思われますが、そうではありません。さまざまな疾患をもつ患者さん、その家族、患者さんにかかわる多職種とわたり合い、専門的な指導を行うには、十分な知識が必要です。そして、これらの確固たる自信と経験が、よりプラスの方向に働いてくれるのです。

もちろん、新人歯科衛生士だからといって訪問に携わることが不可能なわけではありません。歯科医師は歯科衛生士を育てるという役割を担っているといえます。新人歯科衛生士でも、経験ある歯科医師が先導し指導していけば、問題なく診療は進んでいくでしょう。そのときには、一般歯科診療（外来）での経験や教育をおろそかにしないことが重要です。外来で行うことができないことを、訪問でできるはずがないからです。両方同じように、もしくは外来をある程度習得した状態から訪問を学んでいくことが、訪問・外来どちらの場でもオールラウンドで活躍できる歯科衛生士へと成長するために必要であると考えます。

## ◆歯科衛生士のモチベーションを高める！

そして、専門分野としての訪問歯科診療は、歯科医師ばかりでなく歯科衛生士にとっても向き不向きがあることも忘れてはいけません。歯科医師のすべてが訪問歯科診療を行っているわけではないことをみればわかるように、すべての歯科衛生士が訪問歯科診療に向いているということはありません。

非常に難しい問題ですが、解決の糸口はあります。自院で訪問歯科診療を始めるとき、帯同する歯科衛生士はどのように感じているのでしょうか。「外に行くのは面倒だな…」「仕事が増えちゃう…」と思っているかもしれません。そのようなマイナス思考ではやりがいとを感じることはとても無理でしょう。しかし、その糸口は「はじめるきっかけ」だと思います。訪問歯科診療にはじめて出かけるとき、それが外来診療での自分の担当患者さんだったなら、どうでしょうか。長年の担当患者さんが外来受診できなくなり、在宅で自分を待っていてくれる状況は「担当である自分が行くこと」が大きな意味をもちます。予約を決めるときは、ぜひ、担当歯科衛生士の予定を考慮することも忘れないでください。「決まった予約日に空



図 1, 2 訪問歯科診療の一場面

歯科医師の口腔内診査後、歯科衛生士が歯石除去、PMTc、口腔ケア指導まで行う。状況に応じ、歯科医師はアシスタントに立場を変えて診療を進める

いている人（歯科衛生士）が訪問する」のではなく、「担当歯科衛生士が訪問することができる日に訪問歯科診療の日時を設定する」ことが大切なのです。もしくは、担当歯科衛生士が担当患者さんのために時間を調整することも必要でしょう。

## ◆歯科医師 1 人での訪問は効率が著しく悪い！

訪問歯科診療をはじめたばかりの頃は、訪問患者数が数人であることもあり、つい歯科医師 1 人で気軽に時間を決めて、昼休みや外来終了後に行ってしまうのでしょうか？ しかし、実際のところ、訪問歯科診療を開始すると、歯科医師 1 人での訪問には限界があることがわかってくるでしょう。効率の悪さを実感できるからです。この効率の悪さは、訪問歯科診療だからではなく、歯科医師 1 人で訪問していることが原因なのです（図 1, 2）。



## 8:30 【始業、準備】



前回の訪問歯科診療終了後に、使用した器具の補充は行っているが、当日の朝も予定の診療内容を確認しながら補充の欠品がないかチェックする



## 9:15 【出発】



補充のために車から降ろした器具ボックスを積んで、出発！



## 9:30 頃 【患者 A】

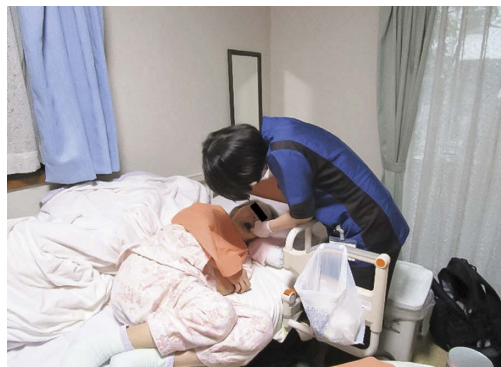
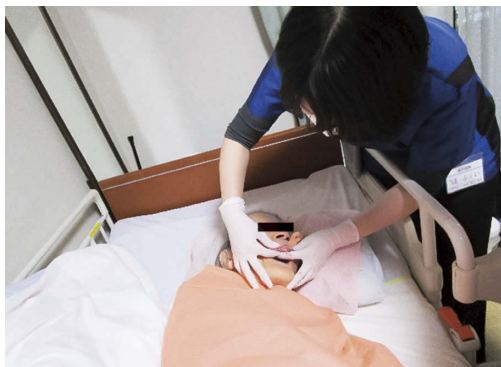
**予定診療内容** 義歯調整、義歯印象

**実施診療内容** 上顎義歯印象

**主な使用機器、器具・器材** 印象トレー、アルジネート印象材



水を使用するときは、患者にお願いして使わせてもらう場合も多くある。近くに洗面等がない場合もあるため、念のためボトルに入れて持参している

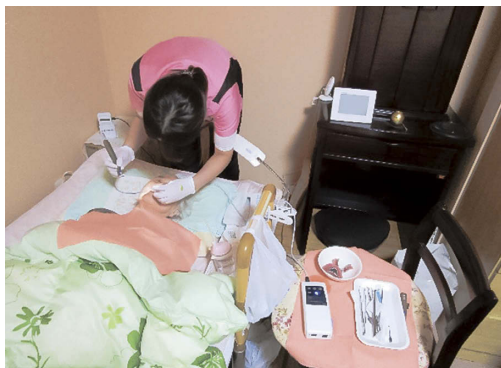
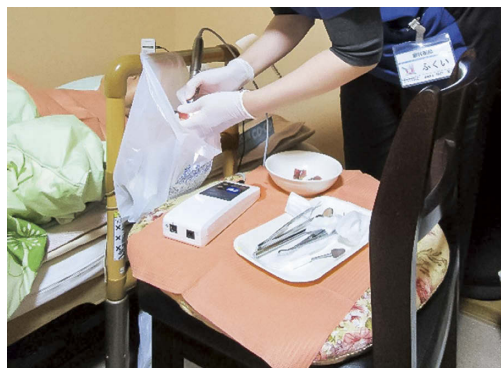
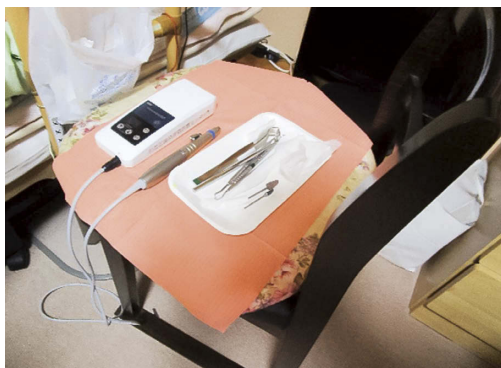


## 10:10頃【患者B】

**予定診療内容** 義歯調整

**実施診療内容** 義歯調整, 口腔ケア, PMTC

**主な使用機器、器具・器材** ポータブルエンジン



リクライニングができないベッドでは姿勢が辛くなることもある。訪問歯科診療は患者の体調や負担も考慮し、短時間で効率的に行う手早さが重要であるが、術者の負担をなるべく軽くするためにも、効率よく行う必要がある。

予約時間を決めるには、移動距離も含め検討する必要があるため、アポイント帳に地図を貼って適宜確認する

# 訪問歯科診療の【基本セット】を作ろう！

福井智子 Tomoko Fukui

## ◆収納の工夫で機能的な【基本セット】に

機器、器具・器材は、どうすれば機能的に収納できるか悩むところだと思います。歯科診療に必要な機器、器具・器材は非常に多く、細かいものです。筆者の診療室でも、準備する歯科衛生士の負担を減らし、診療の場で診療しやすいことを念頭に、歯科衛生士と相談・工夫しながら形を整えてきました。これから訪問をはじめる歯科医師や、使いにくいと思いながら診療しているみなさんの参考になればと思います。

訪問の場で器具出しをする場合、紙エプロンの上に、①紙トレイ、②5点セット、③口腔ケア用ウェットティッシュ、を出します。その他は必要に応じて追加していきます。予定の診療が決まっている場合や歯科医師1人での訪問の場合は、すべてを「まとめてパック」してしまうのも一手です。ただし、訪問歯科診療の場合、予測と違った治療になる場合も多々あります。齲蝕処置（ガラスイオノマー充填）の予定で「5点セット、切削用バー、充填器、CRシリンジ、ノズル」などをパックしていたのに、前回まで調子の良かった義歯が「痛い」となれば、義歯調整の準備に変更です。「体調が悪いのでケアだけにしてほしい」となればまた変更です。予定の訪問時間、患者さんの体力などを考慮すると、齲蝕処置と義歯調整の両方を行うことが難しい場合もあるため、齲蝕処置の準備は無駄になります。訪問の前日に、訪問予定患者さんの治療内容を確認して準備を考えて、セットを組んで滅菌・消毒…というのは、複数の訪問予定があれば残業にあたる作業になるかもしれません。

「無駄」を作ってよいのか、を考えなければいけません。「無駄」ではなく「必要なもの」として、あえてどのようなパターンにでも応じられるように準備するのも一つの方法ではあります。

事前準備が楽なのは、「5点セットだけパック」しておき、その他（個別収納）はその場で出す、だと思います。そのために、収納しているカゴからすばやく取り出せる工夫も必要です。収納の全体を見渡せるように、重ねない。取り出すときに慌てないよう、いつも同じ場所に入れる（戻す）ことが重要です。5点セットは5つ、バーセットは各2つ、CR充填器は2本など、収納している器具の数を決めておくことも大切です。また、診療で消費した数を覚えておかなければ、何人目かの時に「器具がなくなった！」ということになりかねません。「まとめてパック」より煩雑だと思われるかもしれませんが、使わなければしばらく収納したままでも問題ありませんし、使ったぶんを補充すればよいので、慣れると事前準備は楽だと思います。



図1 筆者の診療所での【基本セット】

常時、患者に持ち込む器具・器材で、①使用頻度や診療内容で分けて収納、②重ねず立てて収納、③かごの中、各ケースの中は余裕をもたせる、④雨よけ、落下防止のカバーを付ける、の4点がポイント

使用した器具・器材は必ず補充、担当歯科衛生士が複数いる場合は引き継ぎを行います。歯科医師も、帯同した歯科衛生士とともに材料や物品の欠品や残量の情報共有することが大切です。

図1は、筆者の診療室での【基本セット】の構成です。《カゴ大》にはどの患者にも持っていく器具・器材を、それ以外は診療内容に合わせて《カゴ小》に準備します。不要な物まで患者に持ち込む必要はありません。大きな箱等に入れてしまうと、そこからさらに選択する手間が増えるため、小さなカゴにして必要に応じて持ち込むのが便利です。何件訪問するのか？ 在宅か？ 施設か？ 歯科医師1人のみでの訪問か？ 歯科医師・歯科衛生士の2人体制か？ その時々に合わせて準備を考えましょう。